

令和2年度 【三木市】認知症地域支援推進員活動報告

三木市の認知症地域支援推進員について

- 1 認知症地域支援推進員：8名
- 2 認知症地域支援推進員の役割
 - ・ 認知症の人とその家族への相談支援
 - ・ 認知症についての専門職と地域を対象にした研修の企画
 - ・ 認知症カフェの推進
 - ・ 認知症予防健診
 - ・ 頭健康チェック（タッチパネル）による相談
 - ・ 認知症予防教室の企画、教室OB会のフォロー
 - ・ 認知症高齢者等の見守りSOSネットワーク
 - ・ 認知症初期集中支援チームとの連携

報告者氏名：山岸豪紀 黒川晶子 石井洋子 山本宏美

【三木市】認知症施策全体図

取組	内容
認知症の理解を深めるための普及・啓発の推進	
認知症サポーター養成講座の推進	小中学校への働きかけ
認知症ケア推進研修	ライフサポート研修からの発展
認知症の早期診断・早期対応に向けた体制の整備	
頭部の健康チェック	タッチパネルを利用した相談支援
認知症予防健診	町ぐるみ健診と同時実施
認知症初期集中支援チーム	包括、樹光会大村病院、三木市医師会と連携
高齢者にやさしい地域づくりと介護者への支援	
認知症カフェの設置推進	カフェ活動支援
認知症高齢者等見守り・SOSネットワーク	三木警察との連携



イラストこゆり

【三木市】 R2年度認知症地域支援推進員具体的活動報告

テーマ番号< 8 >三木市 認知症こころの声アンケート

目的

認知症の人と家族が安心して暮らせる地域づくりに取り組むために、まず認知症の方や物忘れがある方、そしてそのご家族がどのような生活上の課題を抱えているのか、どのようなことを望んでいるのかの声を集める。

調査の対象

症状がある方や、認知症の疑いのある方を対象とし、認知症の診断の有無にはこだわらず、症状から生活の困りごとや思いを聞き取ることとした。また、家族については同居の有無を問わない。

調査の対象

サービス事業所（居宅介護支援事業所、通所介護、地域密着型通所介護）に協力を依頼し、各事業所から本人、家族各2名にアンケートの趣旨を説明。

●本人への調査

担当者または事業所職員が聞き取りをする。この時、聞き手の解釈にならないよう、要約したり、標準語に修正したりせず、ご本人の言葉をそのまま用紙に書くようお願いをした。

●家族への調査

担当者が趣旨を説明後、アンケート用紙と返信用封筒を渡す。
家族自身が回答を記入し投函。



アンケート回収 本人155名 家族115名

本人の声

質問：最近うれしかったできごとを教えてください

- 「息子たちが家に来てくれたこと」
- 「周りの人が気遣ってくれるとき」
- 「そこらを〇〇（愛犬）と散歩するときかな」
- 「『ありがとう』『上手やね』と言ってもらえること」

質問：不安なことや心配なことは何ですか？

- 「歩けなくなること」
- 「保険証をなくしてしまうこと」
- 「娘に迷惑をかけてしまうかも、と思うと不安やな」
- 「俺の言うことが信じてもらえなくなったらしまいや」

家族の声

- 「いつまで続くのか費用面が不安」
- 「すべてを病気に合わせて生活していると、都合で本人にウソをつくことになり、心が痛くつらくなる。」
- 「診察までの時間が待てずに診察室をのぞいてしまい困っている」
- 「『なにかがあらいつでも声をかけて』と近所の人が言ってくれている。とにかく感謝です。」
- 「病院の方やケアマネジャー、スタッフの人が親身になって相談、アドバイスをくださり、とても支えになっている」

（三木市認知症こころの声アンケートより）

アンケートを実施して 認知症地域支援推進員の思い

- （本人アンケートについて）聞き取りを行った担当者から、「これまで聞いたことのない本人の思いを聞く会になった」と意見があった。このアンケートがご本人の思いを知るひとつのきっかけになれば、それはとてもうれしいこと。
- （本人アンケートについて）本人の「社会貢献がしたい」という意見が多くみられた。「誰かの役に立ちたい」「誰かのために何かしたい」という思いを多くの方もたれていることを、支援者にフィードバックしたい。
- （家族アンケートについて）直接は言いにくいような率直な声を聴くことができた。介護サービス事業所だけでなく、医療機関や地域も一緒になって考えていきたい。

今後

認知症こころの声アンケートでお聞きした、本人やご家族の率直な思いを、医療機関や介護サービス事業所、地域にフィードバックし、ともに「認知症の人が安心して暮らせる地域」について考える。



イラストこゆり

最後に…「真ん中には本人」という思いで、家族や地元のいろいろな立場の人と、一緒に取り組みを進めたいと思います。

